

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってから107円32銭まで安値を更新しました。

9月に入ってからドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景としてFRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会への挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているといえます。

ドル/円相場のトレード戦略

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されると考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものとどまるとの観測が出ると、ドルは113円台を回復する動きとなっています。

年末に向けては、9月FOMCで米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税政策発動が現実味を帯びてきたためドルの上昇基調継続が期待されるものの、米国の財政政策は期待ほど大きなものとはならない可能性も高く、ドルの上値も限られたものとなり、再び110円～115円のレンジ取引が続くものと予想します。

■短期展望

先週は、衆議院議員選挙で与党が大勝したことを受け株高・円安の流れでスタートし114円台を回復、次期FRB議長候補としてタカ派のテイラー氏が有力と報じられたことや、米第3四半期GDP速報値が予想を上回ったこともあり、一時114円45銭の高値をつけました。

しかし、週末に「トランプ大統領が次期FRB議長にパウエル氏指名に傾いている」との報道が流れると113円半ばまで押し戻されて週を越えています。

今週は、週末に米雇用統計を控えており、また注目の次期FRB議長人事が今週中に発表される見通しであることから、結果次第では波乱の展開もありえるでしょう。

もともと、堅調な米国経済を背景としたドル買いは根強く、材料での反落は押し目買いの好機となるものと思われます。

今週は112円半ばから114円半ばのレンジを想定しつつ、押し目買いのチャンスを探る展開となりそうです。